南琉球八重山語
西表島船浮方言における
焦点標識の使用

占部　由子
（九州大学大学院/ 日本学術振興会特別研究員 DC）

2019年6月16日

「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」
研究発表会 @ 国立国語研究所

本発表が着眼する**事実**：船浮方言の焦点助詞 =du の使用に関する、2つの相反するデータ

面接調査から

対比焦点やWH焦点など、どのような焦点タイプでもほぼ徹底して焦点標示される。1節につき1つ。(Shimoji 2018 のいう Non-Restrictive type)

談話調査から

焦点標識の使用頻度はかなり低いことがわかった。

本発表の**問い**:なぜ、面接調査の結果と談話の結果が大きく異なるのか？

面接調査から

対比焦点やWH焦点など、どのような焦点タイプでもほぼ徹底して焦点標示される。1節につき1つ。
(Shimoji 2018 のいう Non-Restrictive type)

談話調査から

焦点標識の使用頻度は
かなり低いことがわかった。

本発表の**提案**：2つのデータの違いは、実際の言語運用でなされる予測をふまえると説明できる

面接調査から

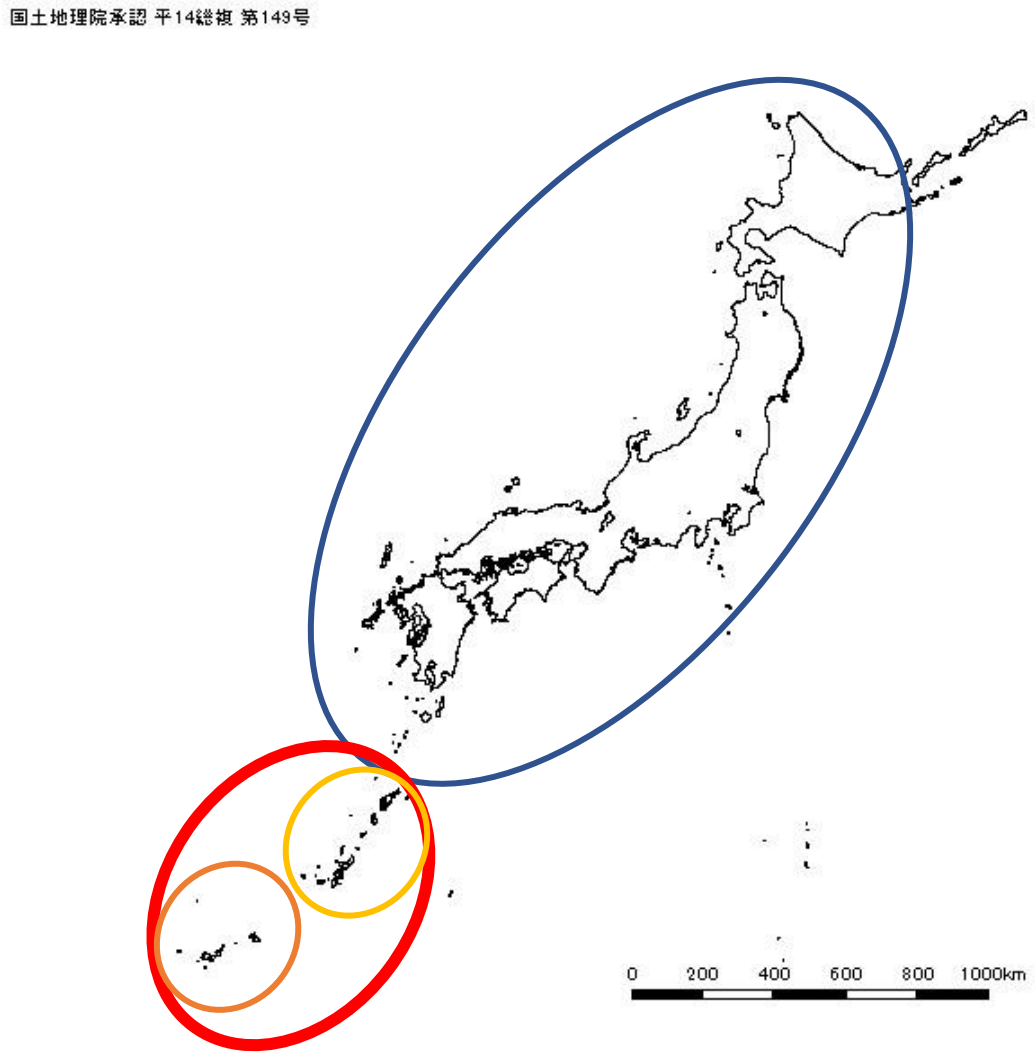
対比焦点やWH焦点など、どのような焦点タイプでもほぼ徹底して焦点標示される。1節につき1つ。
(Shimoji 2018 のいう Non-Restrictive type)

談話調査から

焦点標識の使用頻度は
かなり低いことがわかった。

南琉球八重山語西表島船浮方言

南琉球八重山語

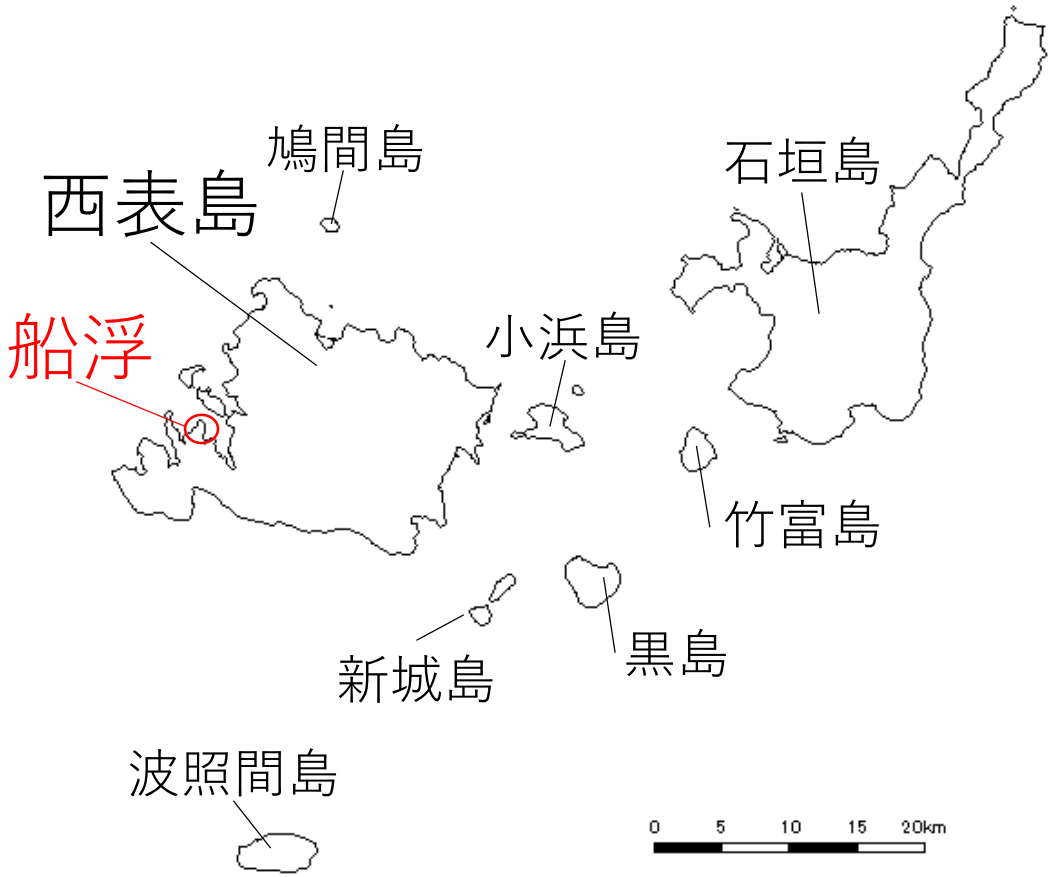


日琉諸語 (Pellard 2015)

- 日本語 (本土方言)
- 琉球諸語
  - 北琉球語
    - 奄美語
    - 沖縄語
  - 南琉球語
    - 宮古語
    - 八重山語
    - 与那国語

西表島船浮方言

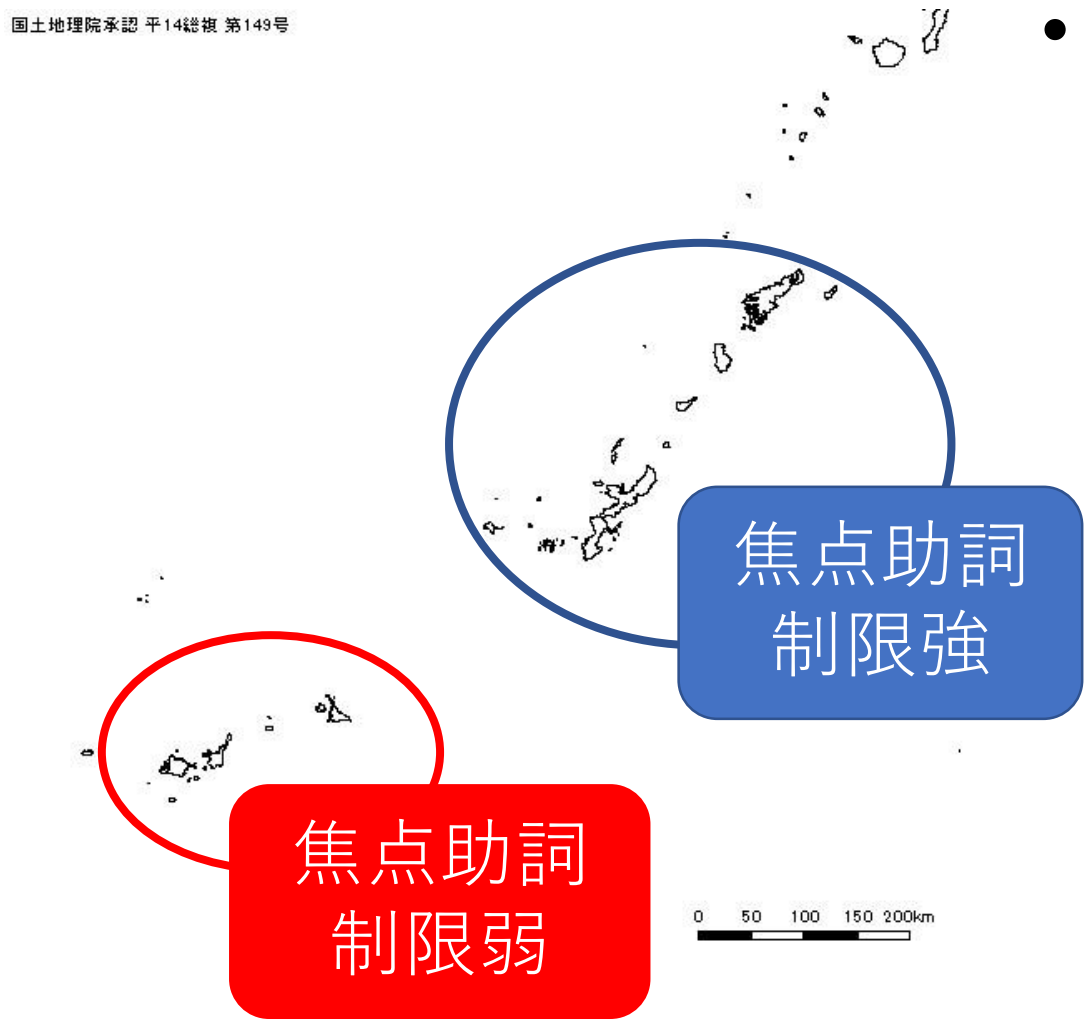
国土地理院承認 平14総複 第149号



- 船浮集落
  - 西表島最西端の集落
  - 人口: 42人
(2019年5月末時点)
  - 流暢な話者は10名以下？
  - 80代以上でもほとんどの人は外住歴が長く、日本語まじりでの発話になる
  - 先行研究: 5編

琉球諸語における焦点標識

琉球諸語における焦点標識



- 焦点標識 =du
  - 日本語古典語の係助詞「ぞ」に由来
  - 琉球諸語の各方言に現存
  - 通方言的な共通点
    - 出現位置
    - 1節につき最大1つ出現
  - 方言間の相違点
    - 出現可能な環境

焦点領域の開始位置に出現 (Davis 2013)

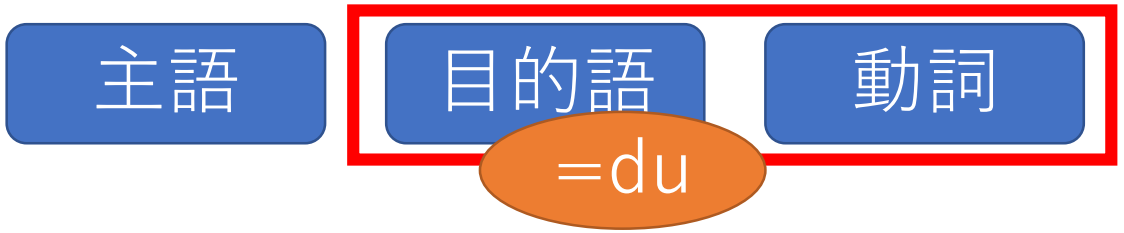
(1) Broad focus

a. **noo=n=du** **ar-i?**
what=NOM=DU exist-PST
'What happened?'

b. **hajasi-san=du** **ziroo=ba** **bar-i.**
Hayashi-san=DU Jiro=BA hit-PST
'Hayashi-san hit Jiro'

(石垣島宮良方言) [Davis 2013: 33]

焦点領域の開始位置に出現 (Davis 2013)



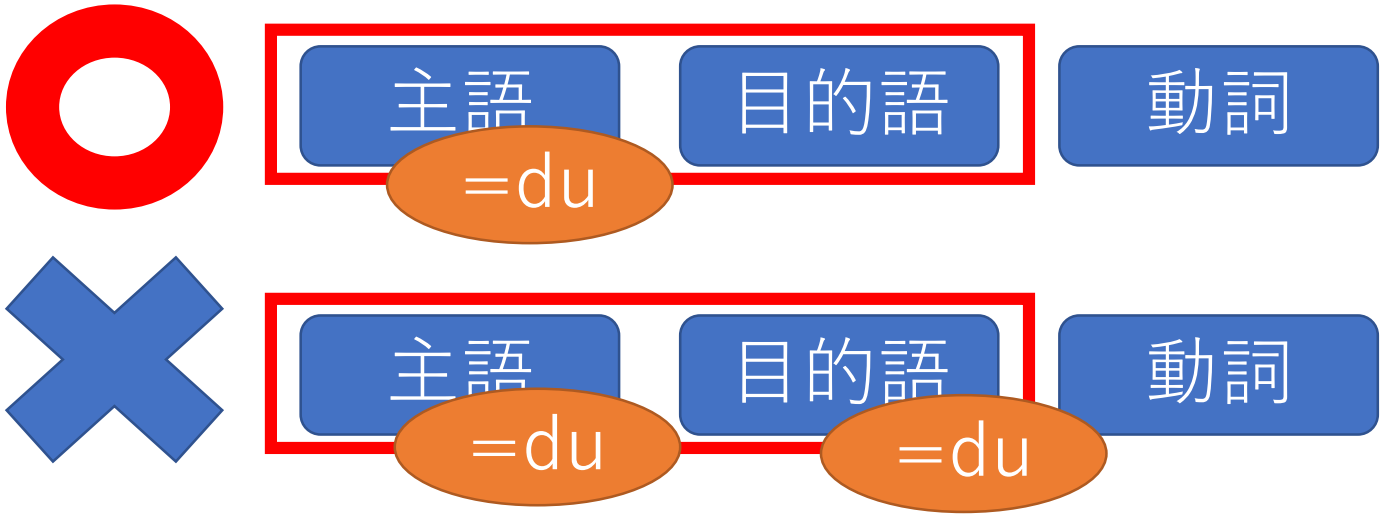
(2) VP focus

a. **unu midun-pïto=o noo=ba=du hi-i?**
that female-person=TOP what=BA=DU do-PST
'What did that woman do?'

b. **kunu midun-pïto=o izï=ba=du fa-i.**
this female-person=TOP what=BA=DU eat-PST
'This woman ate fish'

(石垣島宮良方言) [Davis 2013: 33]

1つの節につき、最大1つ出現可能



(3) **baa=du** **ongi{=ju/ ?=du}** **cukur-u.**
1.SG=FOC 扇{=ACC/=FOC} 作る-NPST

(「誰が何を作るの？」に対する回答)
「私が扇を作る」

(石垣島大浜方言、発表者調査データ)

モダリティと焦点標識 (かりまた 2011)

- 焦点標識 (=du/ =ga/ =nu/ =kuse:) とモダリティ・述語の形式の関連について調査
- 南北合計4地点で比較
  - 沖縄語那覇方言
  - 沖縄語今帰仁方言
  - 宮古語平良方言
  - 八重山語石垣方言
- モダリティによって焦点標識の出現が制限される

モダリティと焦点標識 (かりまた 2011)

		沖縄語 那覇方言	沖縄語 今帰仁方言	宮古語 平良方言	八重山語 石垣方言
ものがたり文 (直説法)	いいきり文 (非過去)	=du	=du	=du	=du
	おしはかり文 (推測)	=du	=du/ =kuse:	=du	=du
たずねる文 (疑問法)	肯否質問文	=du	=du	=du/ =nu	=du
	疑問詞質問文			=ga	=du
はたらきかける文 (希求法)	さそいかけ文 (勧誘)				
	命令文				

モダリティと焦点標識

		沖縄語 那覇方言	沖縄語 今帰仁方言	宮古語 平良方言	八重山語 石垣方言
ものがたり文 (直説法)	いいきり文 (非過去)	=du	=du	=du	=du
	おしはかり文 (推測)	=du	=du/ =kuse:	=du	=du
たずねる文 (疑問法)	肯否質問文	=du	=du	=du/ =nu	=du
	疑問詞質問文			=ga	=du
はたらきかける文 (希求法)	さそいかけ文 (勧誘)				
	命令文				

=du
出現

モダリティと焦点標識

		沖縄語 那覇方言	沖縄語 今帰仁方言	宮古語 平良方言	八重山語 石垣方言
ものがたり文 (直説法)	いいきり文 (非過去)	=du	=du	=du	=du
	おしはかり文 (推測)	=du	=du/ =kuse:	=du	=du
たずねる文 (疑問法)	肯否質問文	=du	=du	=du/ =nu	=du
	疑問詞質問文			=ga	=du
はたらきかける文 (希求法)	さそいかけ文 (勧誘)				
	命令文				

=du
不可

情報構造と焦点標識 (Shimoji 2018)

- 焦点標識の出現差異を情報構造の観点から説明
- 焦点標識の出現に関わる要因

焦点領域	述語焦点、項焦点、文焦点
焦点タイプ	対比焦点、WH焦点、 WH応答焦点

焦点領域

主語 | 目的語 | 動詞

述語焦点

主語以外の要素が焦点領域にある

(4)

wanoo	**ňama**	**sigutu**	**sunoo**	**araa**
1SG.TOP	now	work	do.TOP	COP.NEG.CVB

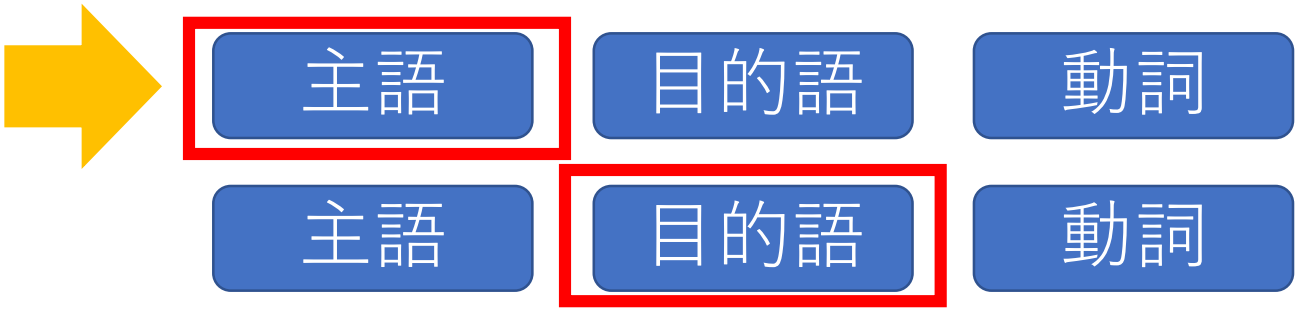
[see=du **nudun]$_F$=doo.**

sake=FOC drink.PROG.NPST=EMP

‘I am now not working but DRINKING SAKE.’

(奄美語喜界島小野津方言)[Shimoji 2018: 101]

焦点領域



項焦点

項だけが焦点領域にある

(5) **wanoo** **araa** **[akʲira]$_F$=ŋa=du**
1SG.TOP COP.NEG.CVB Akira=NOM=FOC

isoo **kʰuwačan=doo.**
chiar.TOP broke=EMP

'It is not me but AKIRA who broke the chair.'

(奄美語喜界島小野津方言)[Shimoji 2018: 100]

焦点領域

項焦点

項だけが焦点領域にある

(6) **wanoo** 1SG.TOP **mizoo** water.TOP **araa** COP.NEG.CVB **[see]$_F$=du** sake=FOC

nudun=doo.
drink.PROG.NPST=EMP

'It is not water but SAKE which I am drinking.'

(奄美語喜界島小野津方言)[Shimoji 2018: 101]

焦点領域

主語　目的語　動詞

文焦点

全ての要素が焦点領域にある

(7) a. **nau=nu=du** **atar=ga?**
what=NOM=FOC exist.PST=Q
'What happened?'

b. **[ami=nu=du** **ffiur]$_F$.**
rain=NOM=FOC
'It's raining.'

(宮古語伊良部島方言)[Shimoji 2018: 91]

焦点タイプ

対比焦点

候補となるものの集合から、適切なものを選び出す

(8)

bana:	**manama**	**siguto:**	**sa:nkune**
1SG.TOP	now	work=TOP	do.NEG.CVB
[gusi=du	**numi**	**uru]$_F$=dara.**	
sake=FOC	drink.CVB	PROG.NPST=SFP	

'I am not working now; (I) am DRINKING SAKE.'

(八重山語石垣島真栄里方言)[Shimoji 2018: 109]

焦点タイプ

WH焦点

命題のうち未指定の部分を示す

(9) **manama [nuː=du siː uru]$_F$=ja.**

now what=FOC do.CVB PROG.NPST=Q

'WHAT are (you) DOING now?'

(八重山語石垣島真栄里方言)[Shimoji 2018: 109]

焦点タイプ

WH応答焦点

WH疑問の回答となる

(10) **manama** **[gusi=du** **numi** **uru]$_{F.}$**
now sake=ACC=FOC drink.CVB PROG.NPST

'(I) am DRINKING SAKE now.'

(八重山語石垣島真栄里方言)[Shimoji 2018: 109]

情報構造と焦点標識 (Shimoji 2018)

- 2つの焦点階層を示し、方言間に見られる焦点標識の出現差異を、これらの制限の差異として説明

焦点領域	項 ＞ 述語
焦点タイプ	対比焦点 ＞ WH応答焦点 ＞ WH焦点

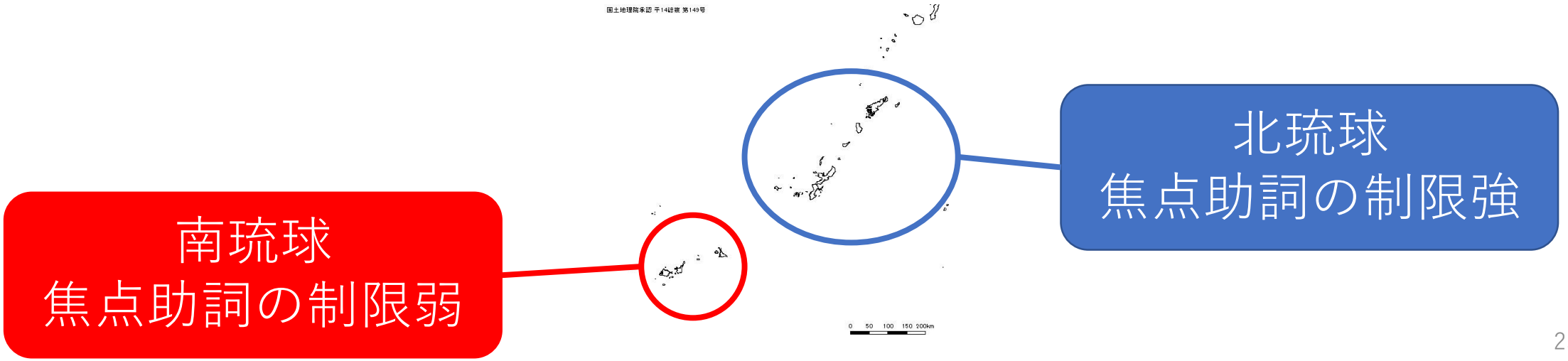
情報構造と焦点標識 (Shimoji 2018)

- 出現可能な焦点タイプの違いにより、琉球諸語の方言を分類

  a. CF-sensitive type: 対比焦点の場合のみ焦点標識が使用可能

  b. EF-sensitive type: 対比焦点とWHA焦点の場合に焦点標識が使用可能

  c. Non-restrictive type: いずれの焦点タイプにおいても焦点標識が使用可能



各タイプの比較
(焦点範囲: 主語、データはShimoji 2018 に基づく)

	Non-restrictive type	EF-sensitive type	CF-sensitive type
	宮古語伊良部島方言	奄美語沖永良部国頭方言	奄美語喜界島小野津方言
対比	**akira=ga=du is=su=baa javtar.** 「(私じゃなくて) アキラが椅子を壊した。」	**akira=ga=du isu jabutaN=djaa.** 「(私じゃなくて) アキラが椅子を壊した。」	**akʲira=ŋa=du isoo kʰuwačan=doo** 「(私じゃなくて) アキラが椅子を壊した。」
WHA	**akira=ga=du javtar.** 「アキラが壊した。」	**akira=ga=du jabutaN.** 「アキラが壊した。」	**akʲira=ŋa kʰuwačasu=do.** 「アキラが壊した。」
WHQ	**taru=nu=ga is=su=baa javtar=ga?** 「誰が椅子を壊した？」	**taN=ga isu jabuti=joo?** 「誰が椅子を壊した？」	**tʰaru=ŋa isu kʰuwačasu=yo?** 「誰が椅子を壊した？」

船浮方言の焦点標示：面接調査の結果

琉球諸語における焦点標識

- かりまた (2011)
  - 文タイプと焦点標識の関連について方言間で比較
  - 八重山語は平叙文・疑問文で焦点標識 =du が出現
- Shimoji (2018)
  - 情報構造の観点から、方言間にみられる焦点標識の出現差異を説明
  - 南琉球語は与那国語を除いて、焦点標識の出現制限が弱い (Non-restrictive type)

船浮方言も、面接調査では先行研究の予測に従い、焦点標識の使用可能範囲が広範

Shimoji (2018) から可能な予測:
いずれの焦点タイプでも、焦点標識が出現

船浮方言の調査結果

	Argument		Predicate
	主語	目的語	述語
対比	**akira=du isu bittagasita.** 「(私じゃなくて) アキラが椅子を壊した。」	**saki=du numi buu=doo.** 「(水じゃなくて) 酒を飲んでいる。」	**saki=du numi buu.** 「(仕事をしていない) 酒を飲んでいる。」
WHA	**akira=du bittagasita.** 「アキラが壊した。」	**mina gusi=du numi buu.** 「今酒を飲んでいる。」	**mina saki=du numi bu=gaa.** 「今酒を飲んでいる。」
WHQ	**taa=du kunu isu jaburjaa.** 「誰がこの椅子を壊した？」	**mina nuu=du numi burjaa.** 「今何を飲んでいるの？」	**mina nuu=du si burjaa.** 「今何をしているの？」

文焦点の場合でも、焦点標識が出現

(11) a. **nuu=du　s-ita=gaa.**
何=FOC　する-PST=SFP
「どうしたの？」

b. **akira=du　nah-i　buu.**
アキラ=FOC　泣く-INF　いる.NPST
「アキラが泣いている」

自然談話における焦点標識の使用

自然談話における焦点標識の使用実態

予測

面接調査において、どのような焦点タイプ・焦点範囲でもほぼ徹底して焦点標示されるため、談話データにおいても節数と同等程度に焦点標識が出現する

実際

出現した節の総数に対し、
焦点標識の出現数は2割以下

資料	出現した節の総数	焦点標識の出現数
A	187	23
B	120	21

焦点標示されない例: 文焦点

面接調査	文焦点でも焦点標示が必須
談話調査	文焦点で焦点標識なし

(12) moohii　moohii　uzi=tu　appa=tu
昔　昔　おじいさん=COM　おばあさん=COM
or-ida=di.
いらっしゃる-PST=QUOT
「昔々、おじいさんとおばあさんがいらっしゃったって。」

焦点標示されない例: WH焦点

面接調査	WH疑問では焦点標示が必須
談話調査	WH疑問で焦点標識なし

(13)

nuusiru	**kangai**	**muc-i**	**bur-jaa?**
どんな	考え	持つ-INF	いる-Q

「どんな考えを持っているのか？」（談話調査データ）

cf.

nuusiru	**sigutu=du**	**s-i**	**ot-ta=neraa?**
どんな	仕事=FOC	する-INF	いらっしゃる-PST=SFP

「どんな仕事をしていらったの？」（面接調査データ）

情報構造がわかりにくい例: 述語がない

(文脈: おばあさんが桃を持って帰り、おじいさんが早く帰ってこないかと待っているところで)

(14) a. **uzi=nu** **jamana=ra**

おじいさん=NOM 山=ABL

「おじいさんが山から」(地の文)

b. **appaa** **mjaa=du** **k-ita=doo.**

おばあさん もう=FOC 来る-PST=SFP

「おばあさん、もう来たよ」(せりふ)

情報構造がわかりにくい例: 述語がない

(14) c. **aa** **uzi** **uzi** **hai**
はい おじいさん おじいさん はい

oor-i **oo-ri**
いらっしゃる-IMP いらっしゃる-IMP

「はい、おじいさん、おじいさん、はい、いらっしゃい、いらっしゃい」(せりふ)

以下、おばあさんの台詞が続く

- (14a) の述語に相当する部分は出てこない
- 項だけしか出てきていないもの＝項焦点？
- 述語を基準に節を区切っているが、(14a) のような例や間投詞のみの部分をどう扱うかが問題になる

なぜ、談話データで
焦点標示が少なくなるのか？

なぜ焦点標識の出現数が少なかった？

本発表の提案：
焦点範囲が**別の方法で予測可能**な場合には、焦点標示が不要

情報構造のデフォルト予測	談話においては、 $S_{TOP}[O_{FOC}V]$ (述語焦点) が圧倒的多数 (Zimmerman 2016)。よって、 $S_{TOP}[O_{FOC}V]$ に対する=du 焦点標示は不要。
文焦点を予測させる述語	ある種の述語 (出現・消滅・存在、天候の述語) は、文焦点であることが予測しやすい (下地 2019)。
=du による焦点標示	それ以外の場合 (項焦点) は、焦点を明示する必要が高まる。

モノローグデータ

- 以下の2編を使用
  - いずれも話者が調査者に対して語るモノローグ資料
  - 話者同士の談話資料は収集できていない

仮説 実際の談話で焦点標識がほとんど使用されないのは、焦点標識以外にも、焦点範囲が予測できる資源が存在するからなのでは？

資料	時間	内容	節の総数	焦点標識の出現数
A	9分33秒	童話 (桃太郎)	187	23
B	12分21秒	戦争体験	120	21

焦点領域の分類

- (なるべく機械的に) 3パターンに分類

焦点範囲	基準
述語焦点	• S=mee [O V] のように、Sに主題標示 (=mee) がついていて述語が焦点範囲にあることが明確 • [O V] のようになっており、Sが省略されていることが明らかである
文焦点	• 人やものを新たに導入する (出現、存在) または消失を表す
項焦点	• 人やものの出没・存在を表すものではない • 述語がすでに言及されている

焦点領域の分類

主語　目的語　動詞

述語焦点

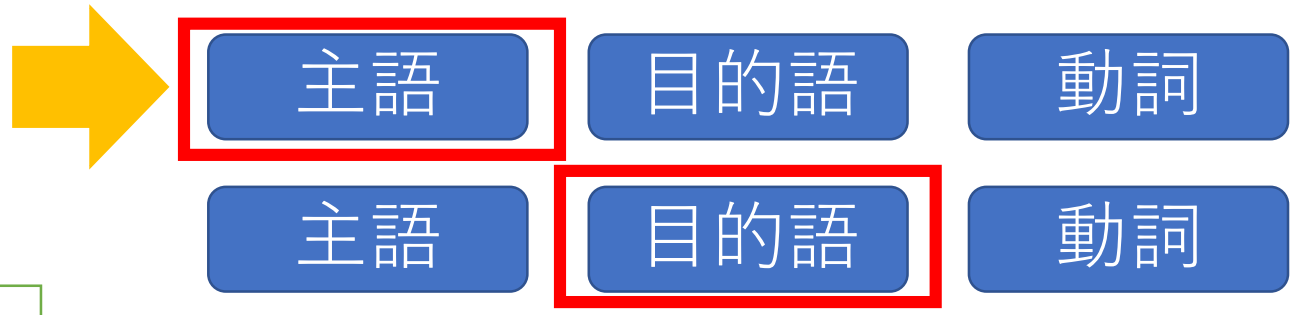
主語以外の要素が焦点範囲にある

(15) **uzi=mee**　**jamana=tti**　**kii**　**pus-i=na**
おじいさん=TOP　山=DAT　木　拾う-NLZ=LOC

or-ta=di.
いらっしゃる-PST=QUOT

「おじいさんは、山に木を拾いにいらっしゃったって。」

焦点領域の分類



項焦点

項だけが焦点領域にある

(16) **ten=nu** **kamisama=du** **kasi** **momo=n** **naka=na**

天=GEN 神様=FOC あんな 桃=GEN 中=LOC

ir-iti…

入れる-SEQ

(なぜ桃の中に子どもが入っていたかという推測をしていて)
「天の神様があんな桃の中に(子供を)入れて…」

焦点領域の分類

主語　目的語　動詞

文焦点

全ての要素が焦点領域にある

(17)　**jane=gan=du**　　**nukuri-ru**

屋根=だけ=FOC　　残る-NPST

(戦後、疎開先から集落に戻ると家がめちゃくちゃにされて)
「屋根だけが残っている。」

焦点領域の分類: 述語焦点か項焦点か？

- (18) と (19) の違いをどう見るか？

(18) **muuru** **buraku=nu** **pitu** **mjaa** **sibas-idi…**
みんな 集落=GEN 人 もう 心配する-SEQ
(集落に鬼が出るので)
「みんな集落の人は心配して」

（このあと、鬼が行っている所業を述べ立てる）

焦点領域の分類: 述語焦点か項焦点か？

(19) **muuru** **sima=nu** **pitu** **uri=du** **tottemo**
みんな 集落=GEN 人 これ=FOC とても

sibas-idi…
心配する-SEQ

「みんな集落の人はこれを心配して」

- (18) と (19) の違い: uri「これ」 の有無
  - シンプルに$S_{(TOP)}[O_{FOC}V]$ とみる (=述語焦点)
  - わざわざ=duをつけて uri「これ」を追加したのだから、明示したいなにかがあるのではないか、という深読み（→項焦点…？）

焦点領域の分類: 文焦点か項焦点か？

(文脈: おじいさんは山に木を取りに、おばあさんは川へ洗濯に行きました。)

(20) **appaa=du** **kinu=ba** **ippai** **tarai=na** **ir-iti**

おばあさん=FOC 着物=ACC いっぱい タライ=LOC 入れる-SEQ

「おばあさんが着物をいっぱいタライに入れて」

- 複数の人がいる状況で、(20) のようにして1人に言及している節がいくつか見られる
  - 新たな場面に向けて、人やものを導入している？ (→文焦点…？)
  - 前でわざわざおじいさんとおばあさんに言及した上で =du をつけているから、この項だけ対比しているのでは、という深読み(→項焦点…？)

分類結果

資料	出現節総数	焦点標識	文焦点	項焦点	述語焦点
A	187	23	21 (4)	14 (12)	152 (7)
B	120	21	22 (3)	4 (4)	94 (14)

※( )内の数字は、総数のうち焦点標識

分類結果

資料	出現節総数	焦点標識	文焦点	項焦点	述語焦点
A	187	23	21 (4)	14 (12)	152 (7)
B	120	21	22 (3)	4 (4)	94 (14)

- 出現数に対して、ほとんど焦点標識が出ていない
- 疑問詞や、登場人物のセリフの中での焦点標識の出現が目立つ

なぜ焦点標識の出現数が少なかった？

本発表の提案：
焦点領域が**別の方法で予測可能**な場合には、焦点標示が不要

情報構造のデフォルト予測	談話においては、 $S_{TOP}[O_{FOC}V]$ (述語焦点) が圧倒的多数 (Zimmerman 2016)。よって、 $S_{TOP}[O_{FOC}V]$ に対する=du 焦点標示は不要。
文焦点を予測させる述語	ある種の述語 (出現・消滅・存在、天候の述語) は、文焦点であることが予測しやすい (下地 2019)。
=du による焦点標示	それ以外の場合 (項焦点) は、焦点を明示する必要が高まる。

分類結果

資料	出現節総数	焦点標識	文焦点	項焦点	述語焦点
A	187	23	21 (4)	14 (12)	152 (7)
B	120	21	22 (3)	4 (4)	94 (14)

- 出現数に対して、ほとんど焦点標識が出ていない
- 単純に新たな人・物を導入するときには主語を主格で標示している

なぜ焦点標識の出現数が少なかった？

本発表の提案：
焦点領域が**別の方法で予測可能**な場合には、焦点標示が不要

情報構造のデフォルト予測	談話においては、 $S_{TOP}[O_{FOC}V]$ (述語焦点) が圧倒的多数 (Zimmerman 2016)。よって、 $S_{TOP}[O_{FOC}V]$ に対する=du 焦点標示は不要。
文焦点を予測させる述語	ある種の述語 (出現・消滅・存在、天候の述語) は、文焦点であることが予測しやすい (下地 2019)。
=du による焦点標示	それ以外の場合 (項焦点) は、焦点を明示する必要が高まる。

分類結果

資料	出現節総数	焦点標識	文焦点	項焦点	述語焦点
A	187	23	21 (4)	14 (12)	152 (7)
B	120	21	22 (3)	4 (4)	94 (14)

- ほとんど焦点標示を受けている
- それまで言及されていた内容との対比を行う際に使われている

なぜ焦点標識の出現数が少なかった？

本発表の提案：
焦点領域が**別の方法で予測可能**な場合には、焦点標示が不要

情報構造のデフォルト予測	談話においては、 $S_{TOP}[O_{FOC}V]$ (述語焦点) が圧倒的多数 (Zimmerman 2016)。よって、 $S_{TOP}[O_{FOC}V]$ に対する=du 焦点標示は不要。
文焦点を予測させる述語	ある種の述語 (出現・消滅・存在、天候の述語) は、文焦点であることが予測しやすい (下地 2019)。
=du による焦点標示	それ以外の場合 (項焦点) は、焦点を明示する必要が高まる。

今後の課題

自然談話データに関する課題

- 今回の結果がモノローグという資料の性質によるものなのか、会話でも同様なのかは検証できていない
  - 船浮方言による会話データの収集は厳しい (そもそも調査が厳しい)
  - 他集落でデータを収集し、比較する
- 対比焦点なのか、WH焦点なのかといった焦点タイプによる違い

面接調査も含めた課題

- 面接調査でも先行研究で述べられていない現象は多々
  - 1つの節内に焦点標識が2つ出現する
  - 焦点標識が出現できないとされる環境 (ex. 命令文) でも、焦点標識が出現
  - 話者数の関係で、世代差なのか個人差なのか分からない
  - 多地点で、なるべく広い世代に対して調べると、変化の方向はつかめる？

謝辞

- 本発表は、以下の助成を受けています。
  - 「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」(プロジェクトリーダー: 木部暢子)
  - 特別研究員奨励費 18J21798
- 調査にご協力いただいている石垣島・西表島のみなさまに心より感謝申し上げます。

略号一覧

-	接辞境界	CVB	副動詞	LOC	場所格	Q	疑問
=	接語境界	DAT	与格	NEG	否定	QUOT	引用
1	1人称	EMP	強調	NLZ	名詞化	SEQ	継起
ACC	対格	FOC	焦点	NOM	主格	SG	単数
ABL	奪格	GEN	属格	NPST	非過去	TOP	主題
COM	共格	IMP	命令	PROG	進行		
COP	コピュラ	INF	不定	PST	過去		

参照文献

- Davis, Christopher (2013) Surface Position and Focus Domain of the Ryukyuan Focus Particle du: Evidence from Miyara Yaeyaman. *The International Institute for Okinawan Studies*, 4(1): 29-49.
- かりまたしげひさ (2011) 「琉球方言の焦点化助辞と文の通達的なタイプ」『日本語の研究』7(4): 69-82.
- Pellard, Thomas (2015) The Linguistic archeology of the Ryukyu Islands. In Heinrich, Patric, Shinsho Miyara, and Michinori Shimoji (eds.) Handbook of the Ryukyuan Languages, 13-37. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Shimoji, Michinori (2018) Information structure, focus, and focus-marking hierarchies in Ryukyuan languages. *Gengo Kenkyu* 154: 85-121.
- 下地理則 (2019)「現代日本共通語(口語)における主語の格標示と分裂自動詞性」竹内史郎・下地理則(編)『日本語の格標示と分裂自動詞性』1-36. 東京: くろしお出版.
- Zimmermann, Malte (2016) Predicate Focus. In: Caroline Fery and Shinichiro Ishihara (eds.) *The Oxford Handbook of Information Structure*, 314-335. Oxford: Oxford University Press.